

ナイチンゲール、 彼女の苛烈な人生

評者◎金井一薫

東京有明医療大学特任教授
ナイチンゲール看護研究所主席研究員

ナイチンゲール伝
図説 看護覚え書とともに
茨木保(著)

本体 1800 円 + 税 / 医学書院 (Tel : 03-3817-5657)



本書は、ナイチンゲールの生涯と彼女の代表作である『看護覚え書』とを、漫画で描いた本邦初の著作である。ナイチンゲールの伝記を漫画で描くという試みはすでに行われているが、難しいと言われている『看護覚え書』の内容を、図解で示すという手法は新しい発想である。さらに本書には「ナイチンゲールの夢—1893 年」と題して、晩年のナイチンゲールの理想が紹介されている。

ナイチンゲールは、1876 年に「究極の目的は、すべての病人を家庭で看護することである」と言っており、地域看護をシステム化する必要性を強く訴えたが、1893 年の論文は、この同じテーマを看護の本質にもとづいて説きながら、世界の人々に向けて発信したものであった。どれも読みごたえのある内容で、漫画本と思って気軽に手にしたら後戻りできない重みがある。

一般的に、ナイチンゲール伝と言えば少年少女向けのやさしい内容だろうと考えられがちだが、あながちそうではない。世界に共通するナイチンゲール伝の代表作は 1913 年発行のエドワード・クックによるものと、1950 年発行のセシル・ウーダム＝スミスによるものとがある。これらはいずれも原著で 500 ページを超える大作で、内容的にも史実に近いとされている。わが国におけるナイチンゲール伝の大半は、これらいずれかの伝記を下敷きにして書かれている点が共通しており、その点で各伝記のスト

ーリーに大きな違いはない。

しかし、ナイチンゲールという人物は、第三者が理解するには難しい内面(キリスト教の神と対峙する自己)をもっており、加えて生涯にわたり病気や症状を抱えて生きたという事実が、ナイチンゲール像を描く作家による評価の違いを生み出してきた。伝記作家たちが、同じ内容のナイチンゲール伝を編まないために、各自のナイチンゲール評価に独自の視点を取り込んできたのは当然であろう。今、私の手元にある 23 点のナイチンゲール伝がこのことを物語っている。

ナイチンゲールの生涯は 3 期に分けてとらえると理解しやすくなる。第 1 期は 31 歳までの、人間としても女性としても自立が阻まれて苦しんだ時代である。第 2 期は 51 歳までで、自分らしい仕事を社会に向けて成し遂げた時代である。この時期に代表作となる主要な著作を書き残している。そして第 3 期は、長年患っていた病気から解放されて比較的穏やかに(晩年の 10 年は視力を失い、認知機能も衰えてはいたが)生きたおよそ 40 年間である。地域看護の実現に向けた夢は、この第 3 期に書かれている。

現代の看護師がナイチンゲールを理解するにあたっては、各期の彼女の著作の内容と照らし合わせて、その生き方を理解し、その心境を推し量る思いやりの心と眼とが必要だと思う。

これが本書の読み方への 1 つの示唆である。